

現行のD C拠出限度額（令和4（2022）年10月～）

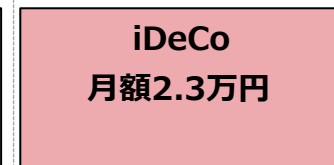
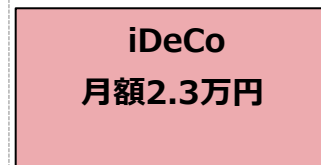
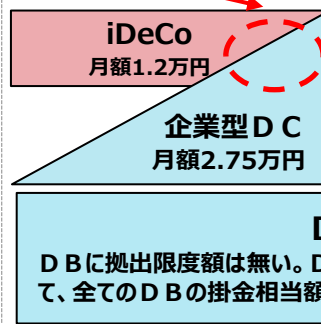
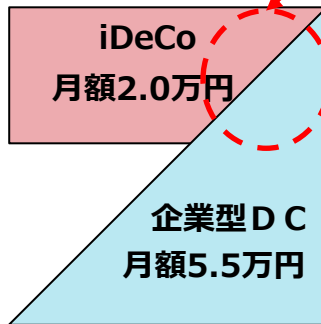
①企業型D Cのみに加入

②企業型D Cと、D B等
の他制度に加入

③D B等の他制度のみに
加入（公務員を含む）

④企業型D C、D B等の
他制度のいずれにも
加入していない

- iDeCoの加入を認める企業型D C規約の定めと事業主掛金の上限引下げは、不要。
- 事業主の拠出額（各月の企業型D Cの事業主掛金額）が3.5万円（D B併用の場合は1.55万円）を超えると、iDeCoの拠出限度額が逡減。



D B
D Bに拠出限度額は無い。D Cの拠出限度額の算定に当たって、全てのD Bの掛金相当額を月額2.75万円として評価。

厚生年金保険

国民年金（基礎年金）

国民年金
第1号被保険者・
任意加入被保険者

国民年金
第2号被保険者等

国民年金
第3号被保険者

- ※ 1 月額2.0万円（D B併用の場合は1.2万円）、かつ、企業型D Cの事業主掛金額との合計が月額5.5万円（D B併用の場合は2.75万円）の範囲内で、iDeCoの拠出が可能。
- ※ 2 マッチング拠出を導入している企業の企業型D C加入者は、企業型D Cの事業主掛金額を超えず、かつ、事業主掛金額との合計が拠出限度額（月額5.5万円（D B併用の場合は2.75万円））の範囲内で、マッチング拠出が可能。マッチング拠出かiDeCo加入かを加入者ごとに選択することが可能。
- ※ 3 D Bには、厚生年金基金・私立学校教職員共済制度・石炭鉱業年金基金を含む。